



IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI CHISUIKAN HIGH SCHOOL IWAMI

研修会報告・・・児玉大貴

平成30年6月20日 於：浜田市教育センター

人権教育とは難しい問題ではあるが、あらためてその大切さを理解することができた。生徒（子ども）の実態や背景は、こちらが見ようとしなければ見えない。日々の学校生活の中でもちょっとした変化や様子のおかしい生徒にいち早く気付けるよう、生徒とのかかわりが大切になる。そして、一人ではその力は発揮できない。みんなでサポートしていける学校にしなければいけないと感じた。

やさしさと厳しさについて

「大嫌いだった先生が・・・」

ネットでちょっと心に残ったものがあつたので紹介します。よく生徒たちは先生を評して、「やさしい先生」「厳しい先生」「こわい先生」「楽しい先生」とかいうことがあります。最近の流れとして、生徒の心情に踏み込んだ理解の大切さや寛容の精神の大切さ、型にはめずその子の個性に応じて見守り育むことの大切さなどが重視されますが、「やさしさについて」私自身誤った受け取り方を今までしていたのかなと思いました。寛容ややさしさと言いながらその実、生徒に妥協し、指導の甘さがあつたのでは？生徒にとって今何を教えなければならないかということより、生徒からどう見られ評価されるかということにしていたのかもしれませんが。やさしさに関しては生徒や親や社会全体で勘違いがあるのかもしれませんが。左の話に登場する「私」もはじめはその一人だったようです。でも「彼」は先生の想いと本当の「やさしさ」に気が付いて感謝していたことが話の最後で分かります。「やさしさ」と「厳しさ」は紙一重であり、それを成り立たせているものは他者（この場合は生徒の彼）に対して、真剣に相手の問題点や課題に向き合い、それを克服・解決するために本気の努力をし、自分と相手と双方の弱さや甘さに妥協しないことだということであらためて考えました。みなさんはどう思われるでしょうか？また感想やご意見がありましたら、人権・同和教育部もしくは松村までお聞かせください。



なんJ民のお絵かき

@yakiunooniityan

ネットで拾ったお話を漫画化しています。

【いままでの作品まとめ】
→ blog.livedoor.jp/nannjyakiu/

🔗 blog.livedoor.jp/nannjyakiu/